

国際化学肥料ニュース (2012年3月)

肥料業界の2012年3月動態

- * アメリカ肥料研究所 (TFI) は2月7日にカリフォルニア州サンディエゴに開催された理事会で、Mosaics社のCEO J. Prokopankoを当該研究所の理事長に、CF Industries Holdings Inc.のCEO S. Wilsonを副理事長に選出した。任期2年。

- * Mosaic社CEO J. Prokopankoは先日、アメリカの窒素とりん安肥料の需要好調を受け、Mosaicはアンモニア製造プラントを新設する計画があると述べた。現在、Mosaic社は自社で50万トン/年のアンモニアを生産しているが、外部から100万トンを購入している。アメリカの天然ガス価格が低値安定で、採算が合う。現在、プラントの建設場所、原料天然ガスの供給元（多分ルイジアナ州の天然ガスを使う）を交渉中。

- * 3月12日のインド国会において、インド大統領は将来5年間にインドの尿素を自給自足することを目指すと言明した。現在、インドの年間尿素需要量は約2800万トン、国内生産量が2200万トン、不足分の600万トンを入力に依存する。尿素輸入を減らすため、インド政府は環境や原料の原因で閉鎖されている8つの尿素プラントを再開させる予定。これらの尿素プラントはインドFCI社とHFCL社が所有するもので、生産能力が合計900万トンである。

- * インド政府は2012年度の予算で、肥料補助金総額を6097.41億ルピー（約119.7億ドル）にして、2011年度より9.3%削減する予定である。現在、インドの肥料末端小売価格は政府で決め、肥料養分（N, P, K）の含有量に比例して補助金を出すシステムであるため、特に輸入尿素に対する補助金が異常に高い。2012年予算に国産尿素に対する補助金が1900億ルピー、輸入尿素に対する補助金が1339.8億ルピー。インド財務大臣が予算に関する説明の中で、今年度から現行の肥料補助金システムに代って、新たに肥料管理システム（mFMS）を導入することを強調した。mFMSは肥料の生産から末端の販売までの情報を一元に管理し、小売価格を自由に設定できる。また、補助金は主に末端の小売業者に支払い、最終的に農家に安い肥料を供給する形とする。一方、国内肥料価格を安定させるため、水溶性肥料の輸入関税を7.5%から5%に、液体肥料の輸入関税を5%から2.5%に引き下げるとともに、化学肥料にかかる消費税率を引き上げないことを約束した。

- * ベトナム農業と農村発展省の発表によれば、今年2月にベトナムが25万トンの化学肥料を輸入した。その内訳は尿素3.5万トン（昨年同期より35%減）、硫安10.1万トン（昨年同期より5.2%減）、DAP4.8万トン（昨年同期より20.2%減）。ベトナムの化学肥料

産業が急速に発展してきて、来年から尿素が自給自足でき、りん酸系肥料の輸入量も半減できると予測する。

- * ロシア Uralchem 社の市場調査研究と貿易政策部門の主管で、IFA 東欧と中央アジア地域顧問の Nina Khongaldyan は 2012 年ヨーロッパ市場の化学肥料需要量が 5~10%減少すると予測した。その理由としては、1. イギリスの定期土壌養分測定結果により、イギリス土壌中の肥料養分が飽和状態となり、肥料使用量が減る。2. アイルランドは昨年から大量の肥料在庫があり、今年度の肥料需要量が減る。3. 金融危機により、南欧諸国が肥料輸入量と使用量が大幅減る。4. 今年冬期の厳寒で、耕作シーズンが遅れ、肥料の需要にも悪影響を与える。これらの影響により、2011 年末から 2012 年初までヨーロッパの化学肥料価格が 15~20%下がり、特にりん酸肥料と窒素系肥料の下げ幅が大きかった。

- * イギリスのコンサルタント会社 FMB が 3 月中旬に中国北京で開催された FMB アジア化学肥料会議に Canpotex は「東南アジアの加里肥料市場」報告書を公表した。当該報告書は 2011 年の東南アジア諸国の塩化加里輸入量が 620 万トンで、2002 年の 290 万トンより倍以上増加した。2012 年も輸入量が昨年とほぼ同水準に維持されるだろうと予測する。東南アジア諸国の昨年度塩化加里輸入量はインドネシア 250 万トン（2002 年 65~70 万トン）、マレーシア 200 万トン、タイ 65 万トン（2002 年 30 万トン未満）、ベトナム 80 万トン、フィリピン 25 万トン（2002 年 20 万トン）。インドネシアとマレーシアはパーム栽培に、タイは水稲、ベトナムは水稲とコーヒー栽培が大量の加里肥料を必要とする。

- * 3 月 20 日、Canpotex 及び BCP は中国国営企業中国化学及び中国農業との間にそれぞれ今年第 2 四半期（4~6 月）の塩化加里輸入契約を締結した。Canpotex と中国化学との契約では、塩化加里輸入量 50 万トン、追加量 20 万トン、価格は CFR470 ドル/トン（契約期間内に全量輸入した場合は 20 ドル/トンの返金ある）。BPC と中国化学、中国農業との契約では塩化加里輸入量 40 万トン、追加量 10 万トン。価格は Canpotex と同じである。これにより、中国は引続き主な塩化加里輸入国の中に最優遇価格が獲得した。対照に日本と Canpotex との契約では今年度の塩化加里輸入価格は CFR550 ドル/トン、ブラジルでは CFR520 ドル/トン、インドでは CFR490 ドル/と 530 ドル/トンである。

大手各社の営業業績

- * ドイツ K+S は昨年に史上 2 番目の好業績を挙げた。会社全体の売上高 51.5 億ユーロ、利益 9.76 億ユーロ、利益率 18.9%、納税後利益 5.82 億ユーロ。業績好調の理由は農産

物の価格上昇により、農家の肥料使用量が増えたことに尽きる。2011年の加里・苦土肥料売上高 21.3 億ユーロ、利益 7.40 億ユーロ、窒素肥料売上高 11.6 億ユーロ、利益 6940 万ユーロであった。

- * ロシアの Eurochem 社は昨年の業績を公表した。売上高 44.1 億ドル、納税前利益 16.7 億ドル、利益率 38%、納税後利益 10.9 億ドルであった。Eurochem 社は昨年窒素肥料とりん酸肥料販売量が 803 万トン、2010 年より 1%減ったが、利益率の高い肥料の販売が大幅に増えたことが業績の向上に貢献した。特に大粒尿素が一昨年より 18 ドル／トンの値上げにもかかわらず 91.9 万トンも販売した。
- * BHP は 2011 年下期の純利益が 5.5%下落したと公表した。利益減少の原因は①投資が増え、②生産量が減り、③鉄鉱石等の資源鉱産物の値下げであったと説明された。一方、肥料部門では、すでに 12 億ドルを投資したカナダ Saskatchewan 州 Jansen 加里鉱山の開発に大きな成果があげ、2015 年から 800 万トン／年の塩化加里を産出し、計画では最終生産能力が 1600 万トン／年に拡大する。現在、バンクーバーに塩化加里輸出用港湾施設の建設が急ピッチで進んでいる。
- * ブラジル Copebras (ブラジルりん酸肥料社) は 2011 年の業績を発表した。昨年に 95.6 万トン化学肥料を販売し、営業利益が 2010 年より 68%増の 1.36 億ドルに達すると発表した。Copebras はりん鉱石 135 万トン、過りん酸石灰 80 万トン、重過りん酸石灰 9 万トン／年の生産能力を有し、2015 年に新たに MAP6 万トン、DAP2.5 万トン／年の工場を完成する予定。
- * アメリカ窒素肥料と工業用ガスメーカーLSB 工業グループは 2011 年の業績を公表した。2011 年第 4 四半期、農業生産資材の売上高が 2700 万ドル、鉱物 1310 万ドル、工業製品 490 万ドル。年間売上高 8.053 億ドル、利益 1.364 億ドル。

肥料プラント新規建設

- * エジプト OCI はアメリカのアイオワ州南東部に 13 億ドルを投資し、世界最大級の窒素肥料工場を建設すると発表した。製品はアイオワ州とアメリカ中西部の化成肥料メーカーや農家に販売する。アイオワ州政府は建設が確定されれば、3700 万ドルの補助金、12 億ドルの優遇金利借入金保証を提供すると共に税制上の優遇措置も与えると考えている。
- * ベトナム国営化学工業グループ (Vinachem) はラオス政府との間に、ラオスの Khammouan 州 Nongbok 県に塩化加里の採掘と精製プロジェクトの建設契約を締結し

た。当該プロジェクトは投資額 4.5 億ドル、採掘面積約 10km²、塩化加里生産量 32 万トン／年、採掘年限 20 年、精製工場稼働年限 50 年。また、Vinachem はラオスに 196.5km² の加里探鉱権利を持っている。ラオスの塩化加里輸入量は 2009 年 1550 トン、2010 年 1100 トン、ほとんどタイを経由する中継貿易であった。

- * アメリカのベンチャー企業 BioNitrogen 社はテキサス州に新型の尿素工場を建設する計画。当該尿素工場が農業廃棄物やその他の生物廃棄物を原料として尿素を生産する。投資額 6500 万ドル、生産能力 12.4 万トン／年である。
- * 中国援助のバングラデシュ Shahjalal 化学肥料工場（所在地 Chittagong）の建設が始まった。当該尿素工場は天然ガスを原料として、オランダ Stamicarbon 社の Urea2000plus 技術を採用し、生産能力がアンモニア 33 万トン／年、大粒尿素 58.万トン／年、総投資額 6 億ドル、2015 年完成。完成後、バングラデシュ BCIC 社が工場の運営を担当する。
- * Yara はカナダ又はアメリカに尿素工場を建設する予定。総投資額約 20 億ドル。これにより 2016 年に Yara の化学肥料生産能力が 800 万トン／年に増加する。
- * ロシア Eurochem 社はカザフスタン南部の Karatau 地域において、りん鉱石の採掘とりん酸肥料生産計画を検討している。目下、実行可能性と採算性調査を行っている。もし、採算が合えば、2013～2014 年から着工、2 年後から生産開始。2008 年、Eurochem 社は Karatau 地域にあるカザフスタン国営企業 Sary-Tas 工場を買収、りん酸肥料の生産を続けた。今回の計画は Sary-Tas 工場を拡張して、生産能力をりん酸系肥料 100 万トン／年に拡大する予定。製品は国内のほか、ロシアやベラルーシ等にも輸出する。
- * ブラジル石油（Petrobras）は、ブラジル Moto Grosso do Sul 州に建設中のアンモニアと尿素工場が計画通りに 2014 年 9 月から正式生産。生産能力はアンモニア 76.1 万トン／年、尿素 121 万トン／年である。Petrobras はすでに傘下に 2 ヶ所の尿素工場を持ち、それぞれ BAHIA 州と Sergipe 州にあり、生産能力が 42.5 万トンと 59.6 万トン／年である。
- * 3 月 19 日、韓国大宇はモロッコ SAFI 地区に 3.3 億ドルを投資し、肥料工場を建設すると発表した。当該肥料工場の建設期間が 2 年。
- * ベラルーシ加里（BPC）は生産能力 24 万トン／年の化成肥料工場を建設する計画を発表した。2012 年 12 月着工予定。

その他

- * ロシア Eurochem はドイツ K+S から BASF 社の窒素肥料販売会社を買収するための交渉を続けている。今月中に決着を目指す。買収金額が 1 億ユーロ以上。また、Eurochem は BASF 社の窒素肥料生産工場をも買収する予定、買収金額は 7 億ユーロに達すると言われる。

- * ロシア Phos Agro 社は傘下の子会社 OJSC Ammophos と OJSC Cherepovets Azot の合併が許可されたと発表した。新会社の名称は OJSCphosAgro-Cherepovets とする。新会社の資本金は 4740 万ドル。Ammophos は MAP, DAP, 化成肥料と肥料用りん酸を生産し、生産能力 100 万トン／年。Cherepovets はアンモニア生産プラントを 2 セット有し、年間生産能力が 53.79 万トンと 51.15 万トン／年。目下、Cherepovets は新たに 70 万トン／年のアンモニア製造ラインを 1 本増設し、2015～2016 年完成する予定。また、尿素プラントの増設も考えている。

- * オーストラリア Orica 社は傘下にあるアンモニア工場（生産能力 28.5 万トン／年）の生産を 2 月 29 日に再開した。2011 年 8 月 8 日、当該工場の排気ガスから微量の六価クロム酸ナトリウムが検出されたため、運転が停止させられた。

- * カナダ Saskatchewan 州の North Rim Exploration 社（North Rim）は当州の原住民保留地に豊富な加里鉱脈を発見したと発表した。North Rim は Muskowekwan 原住民（MFN）保留地と所有地（TLE 土地）計 58300 エーカー（約 236km²）から 2.726 億トンの加里鉱石埋蔵量、2690 万トン塩化加里の採掘可能量を確認した。最終的には 25 億トン加里鉱石の埋蔵量、2.347 億トン塩化加里の採掘可能量があると推測される。

- * パキスタンとイランは今年のもろ麦交換貿易協定を締結した。パキスタンは 100 万トン小麦と 20 万トン米をイランの尿素と鉄鉱石と交換する。アメリカ農業省の情報によれば、最近 3 年間、パキスタンの小麦と水稻の生育が順調で、今年 3 月 31 日現在、パキスタンの小麦在庫量が 300 万トン超、輸出可能量が 80～100 万トン。また、昨年の米収穫量が 660 万トン超、輸出可能量が 300～400 万トン。今年初、パキスタンはサウジアラビアとの間にも穀物と尿素のもろ麦交換貿易協定を締結した。これにより、パキスタンは今年のもろ麦不足分を補うことができる。